

「いいな景観発見ツアー」 レポート

景観の第一人者である堀繁先生（東京大学アジア生物資源環境研究センター教授）をツアーコンダクターにむかえて、上伊那にお住まいの方々の多数の参加により平成25年11月16日（土）に『「いいな景観発見ツアー」』が開催されました。昨年も同様のツアーを行いました。景観行政関係者を主な対象としておりました。そこで今回は、「景観育成は地域住民の意識付けが大切だ」ということで、【地域の方々に、堀先生の言う「景観とは」を視察地で体感し、景観を意識するキッカケとしてもらう！】をテーマとして、地域住民の方々を対象として企画したところ、多くの方々が参加していただき好評の内に無事終えることができました。参加者の皆さん、県市町村の方々、企画運営の方々、ありがとうございました。当日の様子を報告します。

当日のおおまかなプログラムです。まずは伊那市役所にて先生より「景観とは何か、良い景観とはどういうことか」の演題でレクチャーを受けました。それからバスで各地を廻り、現地で先生から解説を聴きながら良い景観の体感と実践勉強を行いました。その後、伊那市役所に戻り、先生から「景観はなぜ重要か」の本講演をいただきました。

◆堀先生レクチャー講演「景観とは何か、良い景観とはどういうことか」

・・・おおまかですがレクチャー講演の内容です。

【「景観」とは何か？】

例えば、まちなみ、とまちなみ景観の違いは何か？

→まちなみは存在そのもの、まちなみ景観は
まちなみを「人が」見ること

つまり、景観とは「見る」こと。景観は、「私に起こっている現象」のこと。山並みが景観なのではなく、「山並みを見ること」が景観。

では、「見る」とは何か？

→「ここはどこで、どんな場所であると理解できる情報」を見ている。見ることは理解すること。さらに、人は「見たいものを見る。」

したがって、

見たいものが見やすい状態にある状況を作り出すことを「景観計画」という。

見たいものとは・・・

→理解の手がかり

見やすい状態とは・・・

→目に入る大きさで、邪魔するものがなく、
一番見たいものが一番大きく見えること。



そして見えの大きさが程良い状態。見えの大きさが程良いとは、目に入ってくる角度（見込角）が10~20°であること。見込角は手を肩の高さで前に伸ばして手首を立てて、その手をゲージにして見える角度が概ね10°、パーにした角度が概ね20°



良い景観とは個人差による主観的なものではない！良い景観とは万人が良いと思う絶対的なもの。

景観が成立するために必要なことは何か？

→「見る場所（視点場）」が必要。言い換えるならば、景観とは、「視点から見る場所」

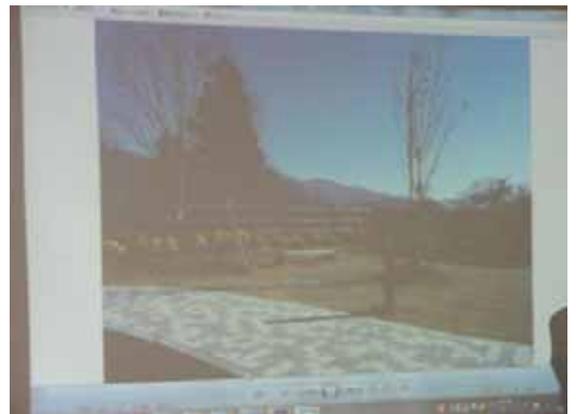
例えば、清水寺景観が成立するのに必要なのは、清水寺を見る場所である。清水の舞台の上からは、清水寺の全景は見え、奥の院という視点場があるから私たちのイメージする清水寺景観が成立する。大切なのは、見る場所。

【見る場所（視点場）のしつらえ】

フェンスと生垣で立ち上がらないと何も見えない東屋と、湖畔に置いたベンチのどちらが好ましいか？との先生から皆さんへの質問。

→全員一致で後者。私たちは一瞬で景観の良し悪しを判断する。

また、「人は自分に身近なものを過大評価する」ため、視点場のもてなし、しつらえが重要。



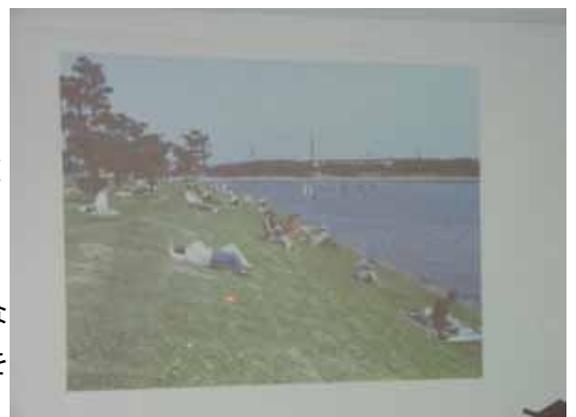
人はどこを見て歩いているのか？

→頭も目玉も動かさずに見られる範囲は、上下 60° / 360° × 左右 80° / 360° = 1/27。

つまり人間は27分の1しか見えていない。

かつ、上下は水平から上 25° 下 35° の割合かつ、人は歩くともっと下を向く。

人は町並みを見て歩くとき、2階などはほとんど見ていない。視点は舗装と1階あたりにあることを理解し、そこをしつらえる事の重要性を理解する。



以上が視察に向かう前の「景観とは何か」のレクチャー内容です。

先生から「以上のことを理解していただき、本日の視察に向かいましょう。」と、先生からの声かけがあってツアー開始です。

◆バスで上伊那各地を廻る景観ツアー

・・・前述のレクチャー講演の知識を詰め込み、3台のバスに乗り込み出発です。
先導車2台が先に回り駐車場を確保しスムーズな視察ができるようにしました。
バスの中では建築士のメンバーが行く先々の案内をしていきました。



・・・今回のコースでの見所や、堀先生からお話のあった点などを紹介していきます。

【飯島町七久保下車】

ここは眼下に田園地帯が広がり、遠景に南アルプスや陣馬形が広がっています。

一番大きく見えるものが、印象を支配する。

ここでは手前の田んぼが一番大きいので、山並みを見るにはベストとはいえないが、視点場から俯瞰景（足下がり）で見やすい。

田んぼのあぜ道に皆一列になって、堀先生から見込角について説明を受け、実際に手を開いたり閉じたりして、「良い景観」の条件である見たいものが見やすい状態にあり、それが10°以上20°以下であることを確かめてみます。

ここは下さがりの視点場なので悪くないが、景色の中で一番大きく見える事が、印象を左右する事から考えると、ここでは田んぼが一番大きいので、山を見るには悪くないがベストとは言えない、という堀先生の指摘にみんな漠然と感じていた印象が数値化されることに驚きます。



【飯島町 道の駅いいじま】（トイレ休憩&お茶）

【伊那スキーリゾート（第2駐車場から東を望む）】

伊那谷西部の伊那スキーリゾートから、東へ南アルプスを正面に臨むポイントにやってきました。

先程の七久保地域と違い、山の占める割合が一番多いために、より「見たいものが見やすい状態にある 良い景観」であることが分かります。

空、山、街、グラウンドが各15°（合計60°）の割合。左右からの森がフレームになって視線が山に集中する好地。

植樹された木々が斜面で生長し、景観（視界）を妨げる存在になりつつある。

山岳ボランティアでガイドをしているという参加者が、南アルプスの山並みを一つ一つ紹介してくれました。



【南箕輪大芝高原】（昼食）

【箕輪町下古田展望台（箕輪町内を西から眺める）】

箕輪町の北西から伊那谷の東から南、西を見渡せ、正面には仙丈ヶ岳がシンポリックに望め、ベンチ・東屋等の展望施設があるポイントです。

空 8、山 10、街 2、谷 40 見たいもの（仙丈ヶ岳）が一番大きく見える。

花桃が大きくなり、景観の邪魔をしつつある。

北側のヒノキ林が蓼科山の方角を隠してしまっている。



東屋、ベンチの存在がもてなしを演出する。東屋の壁はもう少し低いほうがベター

眼下には田んぼと町並み、一番大きく仙丈ヶ岳が見え、景色としては申し分ないのですが、ここにある東屋の壁の高さが座ったときに視界を遮ってしまうことに堀先生からコメントがありました。

また、丸太を半分に切ったベンチが置いてある点を非常に評価しています。



「特に何か名物がないとしても、条件を満たすことができれば、良い景観は作り出せるのです。無名の山だとしても、見やすい場所、見る場所への配慮があれば、景観資源になるのです。」という先生の指摘には、非常にうなずけるものがありました。

【箕輪町松島仲町商店街】

この商店街は 20 年ほど前に道路拡張に伴い再整備された街区です。当時、箕輪町も街づくりに熱心に取り組み、街並み整備基準を作成し実行していきました。田舎の町だが若年人口が多いなかで明るい街を目指してまとめる事とし、整備前の街区に歴史を継承する建物（松島駅変電所・旧町役場・酒蔵）の形状をモチーフにして、切妻屋根形状を道路に向かせる形体を求めたのが規制の特徴です。

箕輪町・商店街も結構頑張ったのだが、週末でも人気が無い現在の状況を見ても残念な結果になっています。他市町村でも独自の景観規制を設けて街並みを整備している駅前商店街等があるが、残念な結果に終わっているケースが多い。何に原因があるのか、何が足りないか勉強したいということで視察地としました。景観というと眺望の良い景色を連想しますが、街並みも景観です。今回の視察地の中では異色ですが、先生からどんな話しが聴けたのでしょうか。

この商店街を見て、ここを歩いてみたい、入って見たいと思うでしょうか。

良い景観であれば入って見たいと思うはず。逆に悪い景観であればそう思わない。

もう一度おさらいしましょう。

良い景観とは？見たいものが見やすい状態にあることでした。では悪い景観とはその逆に、見たいものを邪魔するものがある、ということです。

例えば、壁・塀・生垣・ガラス戸・張り紙・・・人間に近いところが重要です。歩いてみたい舗装か？ということも重要です。店の前に立ったとき、屋根や2階の壁を見るでしょうか？視界には入りませんよね。



皆さんが一番見たいものはなんですか？それは、「わたしをもてなし、楽しませ、迎えてくれる景色」すなわち、ホスピタリティ表現です。

だからこそ、舗装や店の前といった、一番身近なものが重要になるのです。

そもそも悪い景観とは何か・・・？

→良い景観（見たいものが見やすい状態にある状況）の逆。「見たくないものが見える」「見たいものが見にくい」こと。

見にくい（見たいものを邪魔する）とは・・・？

→壁、塀、生垣、ガラス戸、フェンスなど、「拒絶の形」を示すもの。加えて、「私に対して丁寧に対応していない」と感じさせるもの。



店の前に立ったとき・・・屋根、2階の壁は見えない。見るのは舗装、店の前である。建物の意匠をそろえているが、重要なのは人間に近いところ。歩いてみたい舗装か？

地方都市の課題・・・若年層の流出、給料が安いこと。商店街でも後継者がいないのはもうからないから。利益=単価×立寄率となるので、賑いを取り戻せば立寄率がUPして儲かるようになる。

まちづくりの目的は、経済の成長。

一番見たいもの・・・私をもてなし、楽しませ、迎えてくれる景色（ホスピタリティ表現）

仲町へのアドバイス・・・ハード整備はもう十分済んでいるので、あとは演出+撒き餌をまく場所作り（工夫）。通り全体として取り組む事が大切で、お金のからない演出などを積み重ねる工夫が求められる。必ず復活することができる。「理論的に」「体系的に」「戦略的に」行うことが大切。

◆堀先生講演会「景観はなぜ重要か」

・・・上伊那各地を視察し、伊那市役所に帰ってきました。視察地にて景観とは何かを体感した上で「景観はなぜ重要か」の講演です。おおまかですが内容です。

【道路は景観を構成する重要な要素】

見る方向に不要なもの、見たいものを妨げるものがあるか、ないか。街路樹が邪魔して山が見えない場合は良い景観とはいえない。

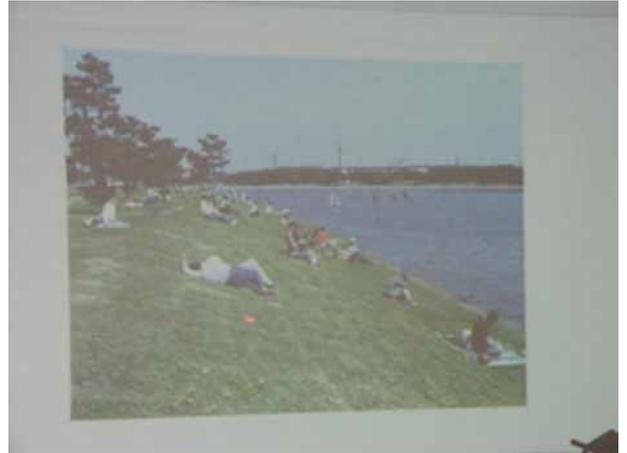


【展望台】

見たいものが・見えているものが評価される。よって、理論がはっきりしているので、良い景観をつくることはたやすい。

さらに、した下がりの斜面などでは座って見られるのでよりよい。

極端に言えば、見る場所のしつらえが良く、景色を見ることすらやめてしまうくらいの視点場が最高である。(例：松本空港公園内の広い芝生の斜面など)



また、それを満たしていれば特定の景観資源がなくても、地域の景観はいくらでも良くしていく事が出来る。

大事なものは、「景観の評価は見る場所の評価で決まる。」こと。

【良い景観とは、主観によらない】

教会の写真なぜ良いと思うか

→見込角 10~20°、見たいもの(教会)が見やすい、見たいものが一番大きい。



お城の写真なぜ良くないと思うか

→壁、電柱、ごみに囲まれて「見たい」お城が見えない。また見たいものより大きいものがある。



したがって

『良い景観とは、センスや好みに関係なく存在する』

【ホスピタリティ表現】

かやぶき店舗（写真左）と、かやぶきの重要文化財建物（写真右）をくらべて解説



かやぶき店舗の写真でどんな所に好感を持ったか？

入り口が開いている、凝った障子、縁台、入り口の緑、暖簾、中の人影、よしず・・・

⇒建物の事は一つも出てこない。つまり、建物は関係ない！！

どうぞゆっくり見て下さい” という「もてなしの形＝ホスピタリティ表現」が感じられる場所を提供することが重要。

〔 建物の評価・・・歴史性、稀少性

景観の評価・・・見たいものが見やすい、見たくないものが見えない（ホスピタリティ）

※評価されるポイントが異なる点に注意する。

【道路のしつらえの重要性】

日本の街中（写真左）とバルセロナ（写真右）の写真をくらべて解説



両者の違いは何でしょう？

日本は車道より歩道が狭い、車が走る道が真ん中

⇒人を大切にしない印象

バルセロナは道の真ん中に歩道＋ベンチが多数

⇒人を大切にしている（ベンチの数と密度が町の評価にかかわってくる）

車道に対する舗装のしつらえは面積が大きく、見る私に対する配慮に大きくかわる

⇒行政の作る道路（舗装）に対する配慮は町の印象を決める大きな要素

【沿道の建物に対する配慮】

(参考写真 京都の通り)



町並みを一つ一つの建築物ではなく、連続しているものと捕らえ評価している。

人は「身近なものを過大評価する」ことから、1階の壁と「のべ段」が最も大切。

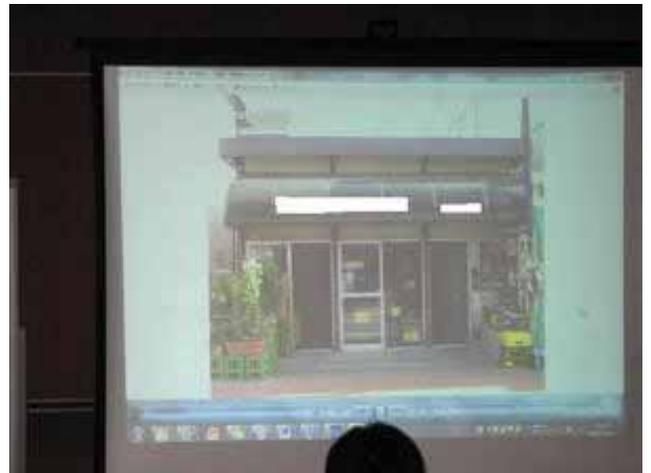
そこに、ショーウィンドウ、暖簾、縁台などホスピタリティを表現。

(しかしながら足拭きマットの存在について一考・・・来訪者にとっては、「店を汚すな」というメッセージになってしまうこともある。)

【もてなしの三種の神器・・・「あいさつ」「迎客」「集客」】



(良い店頭)



(良くない店頭)

三種の神器とは

1. あいさつの装置→入り口の植物・花鉢など
 2. 迎 客の装置→ベンチ、縁台、テーブル・イス、ショーウィンドウ、暖簾、オーニング（日よけ）、木のドア、照明など
 3. 集 客の装置→凝った店名の看板、A型看板、メニュー、のぼり・商品（サンプル）など
- ※注意すべきは、それらをクオリティー高くしつらえることが大切。

【景観はなぜ重要か？】

◇まちづくりに直結する！

経済を回復させ、地域の暮らしを維持できるツールである。

◇すぐにできる！

ホスピタリティ、三種の神器、拒絶をやめる等を心得てしつらえていく。建物とは関係ないのでお金もかからず、すぐにできる。

◇何気ない風景を価値ある景観に変えることは、どこでも、誰でもできること！！

価値ある景観・良い景観を得ることは難しくない。簡単なことから始めましょう。そして、点から面へ広めましょう。

また講演の後の質問タイムにて、仲町商店街をもっとよくするためには何が必要でしょうか？といった質問に対し、色気がない、もてなしの表現が足りない、建築士会のこれからの取り組みに期待しましょう、との先生のお言葉がありました。

まだまだ堀先生は、話しをしたかったようですが、電車の時間が迫りあわただしく会場を後にされました。

良い天気と、大勢の参加者と、堀先生の楽しいお話と、県市町村の協力と、企画運営にあたった建築士会上伊那支部皆のおかげで、景観ツアーは大成功をおさめることができました。ありがとうございました。今後も景観について何らかの企画を地域住民の皆さまに提供したいと思います。

平成 26 年 2 月 22 日

一般社団法人 長野県建築士会上伊那支部
青年女性委員 唐澤直樹
景観ツアー特別委員 唐沢 豊